

# 全文構造解説

## この冊子の使い方

1つの文について、【英文】→【構造】→【解説】→【語句】の順で並んでいる。

1. 【英文】を音読する。構造と内容が理解できれば、次の【英文】に進んでよい。理解できなければ、
2. 【構造】を音読する。文の構造と、まとめりごとの訳（直訳）を確認する。さらに、必要に応じて、
3. 【解説】を読む。直訳を咀嚼して、要するにどういうことを言っているのか、内容の理解を試みる。  
この時点で理解できなければ、「解答・解説」の日本語訳（意識）で内容を確認する。
4. 理解した内容を念頭に、構造と内容が理解できるまで、繰り返し【英文】と【構造】を音読する。
5. 【語句】を音読して、意味を確認する。

最後に全文を通読する。その際、訳すのではなく頭から意味をとりながら、できるだけ早く読むことを意識する。

## 凡例および注意点

凡例：

Ⅰ = 大問番号    1 = 段落番号    ① = 文番号

構造 = 【構造】

主 = 主語（部）    動 = 動詞（句）    目 = 目的語（句・節）    補・名 = 補語となる名詞

副 = 副詞（句・節）    関代 = 関係代名詞    過分 = 過去分詞    など

「    」 = 直前部分までの訳（直訳中心）

[    ] / {    } / [[    ]] など = 注意を要する、句や節などの意味のまとめり

\*1 = 【解説】 とくに注意を要する箇所の指摘および解説

暗例 = 例文。暗唱できるようになることを強くお勧めする

(    ) = 省略可、あるいは補足・別表現

[    ] = 直前の語句との入れ換え可

<    > = 重要な用語、あるいは構文・イディオム

語句 = 【語句】

[ | ] = 発音。左側が発音記号。右側が発音時の目安となるカタカナ表記で、ゴシック体はアクセント

⇒ = 派生語・反意語    など

注意：

【構造】と【解説】は、既出表現や構造が平易な英文については、簡略化、あるいは省略することがある

## I

1 1 Hunter-gatherers had no money.

**構造** 主 Hunter-gatherers 動 had 目 no money. 「狩猟採集民はお金を持たなかった」

**語句** hunter-gatherer [hʌntə r gəðərər | ハンタ ゲダラ] 名 「狩猟採集民」

2 Each group hunted, gathered and manufactured almost everything it required, from meat to medicine.

**構造** 主 Each group 動 hunted, gathered and manufactured 「それぞれの集団は狩猟し、採集し、加工した」 目 [almost everything 関代<sup>1</sup> it required<sup>2</sup>, 「集団が必要としたほとんどすべてを」 from meat to medicine]. 「肉から薬まで」

\*1: 関係代名詞 that の省略。関係代名詞は、文を名詞節に変換するときの記号。ここでは文 it (= each group) required everything. を、目的語 everything を先行詞とする名詞節に変換したもの。目的格の関係代名詞は省略される。

**語句** manufacture [mænʃəfæktʃər | マニュファクチャ] 動 「製造する、加工する」、require [rɪkwaɪər | リクワイア] 動 「要求する」

3 Different group members may have specialized in different tasks, but they shared their goods and services through an economy of favors and obligations.

**構造** 主 Different group members 「異なる集団のメンバーは」 動<sup>1</sup> may have specialized<sup>2</sup> in 目 different tasks, 「異なる作業を専門にしていたかもしれない」 接<sup>3</sup> but 「しかし」 主 they 動 shared 目 their goods and services 「彼らは商品やサービスを分け合っていた」 副<sup>4</sup> through an economy of favors and obligations. 「親切心や恩義からなる経済を通して」

\*1: 動詞は、助動詞や否定の副詞 not、頻度の高い want to do などを含めて動詞の意味のまとまりと考えるのが実践的。なお、推量「～かもしれない」を表す助動詞 may の過去形は might だが、might は基本的に現在の弱い推量を表す。過去の推量「だったかもしれない」は may have done で表す。[暗例] I may be wrong. 「私が間違っているかもしれない。(※確率は半々)」→ I might be wrong. 「(もしかしたら) 私が間違っているかもしれない。(※確率はより低い)」→ I may have been wrong. 「私が間違っていたかもしれない。」

\*2: 前置詞に導かれる句は、原則として副詞句と考えるとよい。ただし、自動詞(目的語をとらない動詞のこと)が目的語をとるために使われる前置詞は、〈動詞+前置詞〉で1つの他動詞(目的語をとる動詞のこと)ととらえた方がよいことがある。ここでは、specialize in 「～を専門にする」を1つの他動詞ととらえれば、different tasks が目的語になる。

\*3: この接続詞 but を〈等位接続詞〉といい、例えば語と語、句と句、節と節などを対等に接続する。ここでは節と節を対等に結ぶもの。結果できた文を〈重文〉という。

\*4: 前置詞 through に導かれる意味のまとまりで、副詞句と考える。**語句** specialize [spɛʃəlaɪz | スペシャライズ] 動 「専門にする(～in)」、task [tæsk | タスク] 名 「作業」、share [ʃeər | シェア] 動 「分かち合う」、goods [gʊdz | グッズ] 名 「もの、グッズ、日用品」、favor [feɪvər | フェイヴァ] 名 「好ましいこと、親切心」、obligation [əblɪgəʃən | アブリゲイション] 名 「義務、恩義」

4 A piece of meat given for free would carry with it the expectation of something in return — free medical assistance, for example.

**構造** 主 [A piece of meat 過分<sup>1</sup> given 副 for free] 「無料で与えられた肉の一片は」 動<sup>2</sup> would carry 「運んだものだった」 副<sup>3</sup> with it 「肉と一緒に」 目 [the expectation of something 「何かの期待を」 副 in return 「見返りに」 目<sup>4</sup> — free medical assistance, 「つまり、無料の医療補助を」 副 for example. 「例えば」

\*1: 過去分詞の形容詞用法。直前の名詞 A piece of meat を後ろから修飾し(〈後置修飾〉という)、その名詞とは受動関係(「～される」の意味)にある。

\*2: 助動詞 would は「～したものだだった」という〈過去の習慣〉の意味を表す。used to (do) が「～したものだ(今は違う)」という含みがあるのと違い、現在の習慣とは関係ない。

\*3: 〈前置詞+名詞〉なので副詞句と考える。副詞句は〈文の要素〉ではないので、置き場所が比較的自由。ここでは、動詞と目的語との間に挿入されている。

\*4: ダッシュ(—)は、言い換えや補足説明をするときに使う。ここでは、その前の目的語を具体的に言い換えていることが、続く副詞句 for example からわかる。**語句** a piece of ～ 「～の一片」、carry [kæri | ケリ] 動 「運ぶ、伝える」、expectation [ɪkspektəʃən | イクスペクティション] 名 「期待」、in return [rɪtʃ:rn | リターン] 副 「見返りに」、medical [medɪkl | メディカウ] 形 「医療の」、assistance [əsɪstəns | アシスタンス] 名 「補助」

5 The group was economically independent; only a few rare items that could not be found locally — sea shells, pigments, and the like — had to be obtained from strangers.

**構造** 主 The group 動 was 副 economically 補・形 independent<sup>1</sup>; 「その集団は経済的に自立しており、そして」 主 [only a few rare items 関代<sup>2</sup> that could not be found locally 「地元で見つからなかったいくつかのめずらしい品物だけが」 — sea shells, pigments, and the like —] 「つまり、貝殻や顔料や、似たようなもの(が)」 動 had to be obtained 「得られる必要があった」 副 from strangers. 「よそ者から」

\*1: セミコロン (;) は等位接続詞 (and や but) の代わりに使える。ここではセミコロン前の抽象的な表現と、セミコロン後の具体的な表現をつなぐ役割。

\*2: 先行詞を a few rare items とする主格の関係代名詞。

**語句** rare [reər | レア] 形 「まれな」、item [aɪtəm | アイテム] 名 「品物」、locally [ləukli | ロウクリ] 副 「地元」、sea shell [si:ʃel | スイーシェウ] 名 「貝殻 (= shell)」、pigment [pɪgmənt | ピグメント] 名 「顔料」、(and) the like 「そのようなもの、(～)など」、obtain [əbteɪn | オブテイン] 動 「得る」、stranger [streɪndʒər | ストゥレインチャ] 名 「見慣れない人、よそ者」

6 This could usually be done by simple barter: “We’ll give you pretty shells, and you’ll give us high-quality pigments.”

**構造** 主 This 動 could usually be done 「これはたいていなされた」 副 by simple barter<sup>1</sup>: 「単純な物々交換によって、つまり」 “We’ll give you pretty shells, 「私たちはきれいな貝殻をあなたにあげます」 and<sup>2</sup> you’ll give us high-quality pigments.” 「『そしてあなたは高品質の顔料を私たちにください』」

\*1: コロン (:) は、例示の前に置かれる。「すなわち、つまり」の意味を補うとよい。

\*2: 助動詞 will には、その名詞の意味である「意志」のニュアンス

がある。主語が you の時には、その動詞に「あなたに～してほしい、あなたは～すべきだ」という「私の意志」がニュアンスとして含まれることを覚えておくとよい。

**語句** barter [bɑ:rtər | バータ] 名 「物々交換」、pretty [prɪti | プリティ] 形 「かわいらしい、きれいな」、quality [kwɒləti | クワリティ] 形 「品質の良い」 名 「品質」

2 1 Little of this changed when the Agricultural Revolution began.

**構造** 主<sup>1</sup> Little of this 「このうちほとんどないものが」 動 changed 「変化した」 副<sup>2</sup> [接 when 主 the Agricultural Revolution 動 began]. 「農業革命が始まったとき」

\*1: 主語は必ず名詞なので、この Little は「ほとんどないもの」という否定的な意味を表す名詞と判断する。形容詞で覚えておくとよい。little は不可算を表し、few は可算を表す。[暗例] I have little money. 「ほとんどお金を持っていない。」 I have few friends. 「ほとんど友だちがいない。」 なお、a little と a few の場合は「少しある」という肯定的な意味になる。

\*2: 接続詞 when 以降は時を表す副詞節で、when の前の主節に対する従属節となる。従属節を含む文を〈複文〉という。副詞節は、副詞なので文の要素ではなく、よって、位置が比較的自由で(ここでは文頭にきててもよい)、なくても文法的な文が成立する。

**語句** agricultural [ægrɪkəlʃərəl | アグリカルチュラウ] 形 「農業の」、revolution [revəlu:ʃən | レヴォリューション] 名 「革命」

2 Most people continued to live in small, intimate communities.

**構造** 主 Most people 動 continued to live 「たいていの人々は生活し続けた」 副 in small, intimate communities. 「小さく親密な共同体の中で」

**語句** continue [kənʃɪnju: | コンティニュー] 動 「続ける」、intimate [ɪntəmət | インティマト] 形 「親密な」、community [kəmju:nəti | コミュニティ] 名 「共同体」

3 Much like a hunter-gatherer group, each village was a self-sufficient economic unit, maintained by mutual favors and obligations plus a little barter with outsiders.

**構造** 副<sup>1</sup> [副 Much 前 like 目 a hunter-gatherer group], 「狩猟採集民の集団とよく似て」 主 each village 動 was 「それぞれの村は～だった」 補・名 [a self-sufficient economic unit<sup>2</sup>, 「自給自足の経済単位」 過分 maintained 「維持された」 by mutual favors and obligations plus a little barter with outsiders]. 「相互の親切心と恩義、さらに部外者との少しの物々交換によって」

\*1: much は前置詞 like 「～のように、～に似て」を強調する副詞で、コンマ前は全体として副詞句。なお、前置詞に続く名詞を〈前置詞の目的語〉という。

\*2: コンマは、直前の内容に情報や説明を追加するときを使うことが多い。ここでは、名詞 a self sufficient economic unit の具体的な内容をコンマに続けて追加説明している。なお、続く過去分詞 maintained 以降は、その名詞を後ろから修飾する(〈後置修飾〉という)形容詞用法。これら全体で、be 動詞 was に続く主格補語(名詞句)になっている。

**語句** self sufficient [sɛlf səfɪʃənt | セッフ サフィシエント] 形 「(自分で足りる→) 自給自足の」、economic unit [ekənəmɪk ju:nət | エカナミック ユニト] 名 「経済単位」、maintain [meɪnteɪn

| メインテイン] 動 「維持する」⇒ maintenance [meɪntənəns | メインテナンス] 名 「維持、メンテナンス」、mutual [mju:tʃʊəl | ミューチュアウ] 形 「相互の」、plus [plʌs | プラス] 前 「～に加え」、outsider [aʊtsaɪdər | アウトサイダ] 名 「(外側の人→) 部外者」

4 One villager may have been particularly skilled at making shoes, another at providing medical care, so villagers knew where to turn when barefoot or sick.

**構造** 主 One villager 動 may have been 「ある村民は～だったかもしれない」 補・形 particularly skilled at making shoes, 「靴づくりにとくに熟練している」 主<sup>1</sup> another 「別の(村民)は」<sup>2</sup> at providing medical care, 「医療の提供に(熟練している)」 副 so 「そして」 主 villagers 動 knew 「村民は知っていた」 目<sup>3</sup> where to turn 「どこへ向かうべきか」 副 [接 when<sup>4</sup> barefoot or sick]. 「裸足、あるいは病気の時に」

\*1: one ～, another ... は「～もあれば…もある」という意味の定番の相関表現(対となる表現)。複数形では some ～, others ... となる。[暗例] Some people like playing soccer, others watching it. 「サッカーをすることが好きな人もいれば、見るのが好きな人もいる。」

\*2: 同じ表現の繰り返しを避けるための省略。相関表現のコンマ前と対照すれば、(another) villager may have been particularly skilled (at) が省略されていることがわかる。

\*3: 〈疑問詞+ to do〉で名詞句を作る。[暗例] what to do 「何をすべきか(すべきこと)」、when to go 「いつ行くべきか(行くべきとき)」

\*4: 接続詞 when が導く副詞節では、主語と be 動詞が明らかな場合によく省略される。ここでは they (= villagers) were が省略されていると考える。

**語句** particularly [pɑ:rtɪkjələrli | パティキュラリ] 副 「とくに」、be skilled at ～ 「～に熟練している」、provide [prəvaɪd | プロヴァイド] 動 「与える、供給する」、care [keər | ケア] 名 「配慮、介護」、turn [tʃ:rn | ターン] 動 「(体を) 向ける」、barefoot [beərɪfʊt | ベアフト] 形 「裸足の」

5 But villages were small and their economies limited, so there could be no full-time shoe makers or doctors.

**構造** 接 But 「しかし」 主 villages 動 were 補・形 small 「村は小さかった」 接 and 「そして」 主 their economies<sup>1</sup> 補・形 limited, 「それらの経済は限定的だった」 副 so 「だから」<sup>2</sup> there 動 could be 主 no full-time shoe makers or doctors. 「専業の靴屋や医者はありません」

\*1: be 動詞 were の省略。

\*2: 〈(there is/are 構文) は、動詞に続く名詞部分が主語となる倒置構文で、主語の存在に関する初出の情報が述べられるのが基本。なお、主語に含まれる no は、続く名詞を修飾する形容詞。意味を取るときには、名詞を修飾する否定表現に慣れること。訳すときには、動詞部分を否定するようにすると日本語らしくなる。

**語句** limited [lɪmɪtɪd | リミティド] 形 「制限された」、full time 形 「常勤の、専業の」⇒ part time 「非常勤の、パートタイムの」

3 1 An economy of favors and obligations doesn’t work when large numbers of strangers try to cooperate.

**構造** 主 An economy of favors and obligations 動 doesn’t work 「親切心と恩義の経済は機能しない」 副 [接 when 主 large numbers of strangers 動 try to cooperate]. 「多くのよそ